



後記

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/7835

後 記

本年は北海道教育大学情緒障害教育教員養成課程の10年目を迎える年にあたっています。課程第9期生16名も無事修了することとなり、これまでの修了生は151名を数えることとなりました。

本情緒障害教育研究紀要第9号には、9期生の論文に加えて、旭川肢体不自由児総合療育センター、藤田正文先生の早期療育に対する最近の考え方について、示唆に富む論文をお寄せ頂きました。また、本課程修了生4名、畠山三郎太先生（第3期）、小泉雅彦先生（第4期）、牧野誠一先生（第6期）のグループ、北島可奈先生（第6期）に、各々の実践経験に基づいた論文を頂戴することができました。諸先生に厚く御礼申し上げます。

私どもは毎年、夏・冬2回、北海道教育大学情緒障害教育研究会を開催し、修了生の実践をもとに、研究交流会をもっております。研究会をとおして、あるいは研究紀要をとおして、現場実践と大学の教育研究との交流がさらに深まってくい必要性を感じているところであります。

第9期16名、15編の論文は、障害児教育における指導法・観察法・水泳・音楽・教育課程・養護教諭の役割などの問題、幼児期の早期の関わりや保育の問題、登校拒否の問題、障害者の結婚・余暇・地域資源・自閉症者施設の現状という現代障害者福祉の問題に取り組んだものです。これまでの8年にわたる自閉症、登校拒否、緘黙、障害児教育・障害者福祉等の研究をふまえながら、着実に資料が集積されてきていますが、情緒障害教育をめぐる最近の情勢では、登校拒否問題への取り組みが早急に求められており、本紀要の2編は貴重な手がかりを与えてくれると思います。

本年もまた教育研究活動におきまして、旭川を中心に、北海道全域の学校・福祉機関、ご家族の方々、さらには全国の情緒障害学級関係の方々から、絶大なご協力、ご援助をいただきました。こころから厚く御礼申し上げます。頂戴いたしましたご厚意を肝に銘じ、修了生ともども、現場と地域に学びながら、障害児教育ひいては教育全体の発展に寄与したいと念じております。皆様の一層のご指導と、ご鞭撻をお願い申し上げます。

1990年3月1日

小田切 正
末 岡 一 伯
伊 藤 則 博
古 川 宇 一